

会議名称	県立中井やまゆり園改革アドバイザー会議
開催日時	令和7年3月25日（火）10時00分から16時30分
開催場所	県立中井やまゆり園
出席者	佐藤議長、大川委員、小西委員、隅田委員、野崎委員
問合せ先	障害サービス課 支援改革グループ
会議概要	以下のとおり
（中井やまゆり園＝以下「園」） 【議題1 当事者委員による現地視察】 ○ 以前は暴れてしまう利用者に対し、居室施錠をしていたが、今回の視察では利用者が穏やかな顔をしていた。 ○ 部屋の中に余暇に関する物がなく、利用者の趣味やリラックスできるものを置くなどして、落ち着ける空間が増えたらよい。 ○ 近くにいる職員と離れたところで定点把握をしている職員がおり、何かあれば対応できると感じた。 【議題2 中井やまゆり園の現状】 ○ 防災訓練はいつ実施していて、その際、利用者は参加しているか。また、動きたくないという利用者の参加はどうしているか。利用者の参加を始め、防災訓練の実施状況は監査の観点からも問題ないものになっているか等、チェック機能が大事である。 ○ 防災訓練については、昼夜の想定で対応の困難さが異なり、特に夜間の対応の難しさ等があると思うので、昼夜の時間帯で勤務している職員体制で訓練する必要がある。 ○ 感染症の集団感染時の対策が不十分だと感じている。ガイドラインに則った対応が不足している。既往歴等の状態から、感染時のリスクが高い利用者を意識した感染対策を取ることが必要であり、リスクの高い利用者の把握がないままに状態悪化することがあったと感じられる。 ○ 医療へ繋いでいく対応として、利用者の日々の状態の変化や、いつもと違うといった異変を見つけて医療に繋げる対応が福祉側の役割である。 ○ いのちを守る取組を進める中、栄養状態の改善が見られない利用者については、日々の活動や暮らしと結びついていないと考えられるため、支援の検証が必要である。 【議題3 アクションプランの進捗状況・改定の方向性について】 ○ アクションプランは当事者目線を推進していくためにあると思っているが、利用者の声を聴いておらず、そこが欠落しているように感じられる。本	

質からずれないように、当事者目線をもう一度見直してもらいたい。

- 進捗管理と併せて、この取組を行ったら、利用者の活動が増えた、表情が増えたという評価軸が必要である。
- アクションプランの進捗が低調なものの多くは、カンファレンス等で医務統括や支援改善アドバイザー等が指摘したことが、園内で適切に共有されていないことが一因にある。例えば会議に参加できなくても、園内で適切に情報共有できる仕組みがなければ施設の底上げにつながらない。
- 園の現状として、園外での活動や地域とのつながりは進んでいるが、医療・健康問題については課題が多く、医療的な側面でなく、福祉施設として生活の側面での医療を考えていく必要がある。

以上